

○日本の植物画家たち (2) (小林義雄) Yosio KOBAYASI: Botanical artists in Japan (2)\*

藤島淳三氏 (1903～ )

藤島画伯は椿の二口善雄、桜の太田洋愛、静物の安達真太郎の諸氏と協力してボタニカル・アート同人を編成して今に至っている。私が国立科学博物館に勤務するようになった昭和23年には、既に同館に在って展示用の絵や標本画も作成して居られた。その後間もなく館の共産党のレッドパージに卷込まれ退職されて以来の経歴は、氏自身でつくられた下記の年表に記す通りである。氏は高山植物や庭の花のスケッチに長じ、あざやかな色はそれらの花の面影をよく表わしている。毎年秋に新宿小田急の7階でボタニカル・アート展を開き、数点を出品され、その額縁入りの絵の値段も手頃であるために殆んど売れ残ることはない。兄上の藤島亥次郎氏はよく知られた文化人である。

- 明治36年 東京に生る。
- 大正13年 矢沢弦月氏に師事し日本画習得。
- 昭和14年 東大農学部嘱託。猪熊教授の許にて森林植物標本画の作製に従事。
- 昭和20年 国立科学博物館嘱託。今関六也氏の許にて菌類標本画の作製に従事。
- 昭和25-40年 農水省林業試験場森林保護部に勤務。
- 昭和40年 林業試験場退官。爾後、ボタニカルアート製作並に各種図鑑等の製作に従事、今日に至る。
- 昭和45年 アメリカ、ハントボタニカル協会主催のボタニカルアート展に出品、作品は同協会コレクションに加入。
- 昭和46年 同志数人と共に日本ボタニカル協会を創立、爾後年一回の展覧会を開催今日に至る。
- 昭和48年 南阿聯邦ボタニカル協会主催の世界ボタニカルアート展に出品。
- 昭和57年 ハントボタニカル協会主催のボタニカルアート日本展に出品。

安達真太郎氏 (1906～ )

氏は奥さんを亡くされて落胆されて以来、体は不調で今は妹さんと大泉学園の奥に住んで居られる。都内に居られた頃、私は佐竹義輔さんと一緒にチャーチル会と称し、氏の御宅の2階でサンホールの画板にあまり上手でない絵を画かせて載いた。また下田と一緒にスケッチの旅をしたこともある。近頃は右手が不自由で絵筆を棄てたそうであるが真に残念なことである。今回はあえて伝記は載せないことにした。

(国立科学博物館)

\* 本誌 59: 223-224 (1984) から続く。